

農作物の渇水対策

令和8年1月22日

環境農業推進課

農業イノベーション推進課

野菜（施設・雨よけ・露地）、花き、果樹 共通

- ア．かん水は少量多かん水とする。また、草勢が弱っている場合は薄い液肥を施用する。
露地野菜のかん水可能なほ場ではかん水や畦間かん水を日中の暖かい時間帯に行う。
- イ．土壌の乾燥に伴う、カルシウム欠乏、ホウ素欠乏等の生理障害対策として、必要に応じて葉面散布を行う。
- ウ．敷き草や敷きワラ及びマルチングを充分行い、土壌水分を保つ。特に、定植後や萌芽始めの乾燥は著しく生育を抑制するため、過乾燥にならないよう適宜かん水する。
- エ．（野菜類）草勢が弱っている果菜類は、やや若採りとし、変形果などは早めに摘果して、着果負担を軽くする。
- オ．緊急時に河川や井戸を利用する場合は、事前に塩分等の水質を確認しておく。

露地果樹

- ア．樹体や葉等の状態を確認し、状況に応じてかん水を行う。なお、かん水は昼間の暖かい時間に行う。